

## 結果と分析 平成 28 年度

### 【学習指導等】

- ・今年度は『入学してよかった』『学んでよかった』『卒業してよかった』の実現に向け、インターンシップや地域連携活動等に精力的に取り組んだ。「この学校へ入学して良かったと思う」が 64.5%で、昨年より 7 ポイント増加した。また、少人数展開を行い、基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導を推進した。普通教科の授業は分かりやすいという生徒が、昨年度は 4.3 ポイント増加し、さらに今年度は 4 ポイント増加しており、効果は表れている。
- ・習熟度別授業の実施について、昨年度は 70.7%の教員が肯定し、本年度は 74.3%の教員が肯定している。方策を検討したい。
- ・到達度の低い生徒に対する全校的取組みについて、昨年度は肯定 53.6%と低い値となっていた。本年度も 53.9%と低い値となった。基礎的・基本的な学力を身に付けるという観点から、対策を擁する問題である。
- ・家庭学習をしているのは 29.3%と低く、昨年比 1.7%減少している。家庭学習が低い状態の反面、資格・検定の取得に向けて努力しているが 50.2%で、前年比 5.4 ポイント増加した。実験・実習などへの評価は 78%の生徒が肯定的で 9 ポイント増加した。

### 【生徒指導等】

- ・保護者アンケートにおいては、学校の特色・家庭との連携・進路指導・生活指導の肯定が高い（約 80%）のに対して、授業が分かりやすい（56%）・家庭学習ができている（35.2%）など、学習については低い数字となっている。
- ・子どもとの意思疎通ができているという問いに対する肯定は、昨年度は 3.5%増加し、さらに本年度は 0.9%増加の 86.8%となった。一方、担任以外にも気楽に相談できる先生がいるという問いは、昨年度は 2.8 ポイント増加し、さらに本年度は 3.8 ポイント増加したが 50.8%に留まった。カウンセリングマインドを持って生徒指導に当たることの意味を全教職員が再確認するとともに、生徒が教育相談を有効に活用できるよう、啓発に努めることも必要である。

### 【学校運営】

- ・他の学校にはない特色がある、生徒指導は組織的に対応できているという問いには、ほとんどすべての教員が肯定的に回答しているが、本校の工業教育は現状のままでよいという問いには 58.6%の教員が否定的な回答であった。本校の工業教育をどのような方向に進めていくのか、今一度熟考すべき時期に来ている。
- ・資格や検定取得、クラブ活動、ものづくりについては、ほとんどの教員がより活発に行うべきだと考えている。クラブ加入率やものづくり活動などにより積極的に取り組みたい。
- ・生徒の個人情報に関する管理システムができていることについては、昨年度は肯定が 43.9%で、本年度は 66.7%で 22.8 ポイント増加したが、教職員全体へのシステムの周知や習熟に関する研修の充実が課題である。